



昨秋、ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥さんの偉業によって再生医療の扉が開かれました。皮膚などの体細胞に特定の遺伝子を導入するなどして体のさまざまな組織や臓器の細胞に分化する能力を獲得したiPS細胞（人工多能性幹細胞）は、事故で脊髄を損傷した人やパーキンソン病などの神経変性疾患に苦しむ患者に回復の希望をもたらしてくれました。

その一方で、心臓や筋肉、神経、皮膚など臓器や組織に分化した細胞は、分化前の状態には戻らないという考えは過去のものとなりました。科学の進歩は可能性を信じる場所から始まり、学校で習ったことを納得するだけでは進歩はありません。山中さんは細胞内にある遺伝子の能力を信じて、その特定や細胞の初期化に成功しました。その強烈な好奇心と目標に立ち向かう気力、体力、途中で投げ出さない粘り強さが今日までを導いたのです。加えて周囲には山中さんの夢をいっしょに見ようと伴走した若い研究者たちの存在もありました。ともに医療現場での実用化に尽力するという、さらなる夢が実現する日が待たれます。

しに

香川芳子 女子栄養大学学長

日々の暮らしに

可能性を信じて  
追求した強い気持ちで  
再生医療の扉を開けました